（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着がコロナ禍で困難になっているが、その人らしい生活を送れるよう、一人ひとりに支援しています。	理念についてはホール内に掲示し、月1回の会議の際に周知し実践に繋げている。理念に沿い、利用者のできることはやっていだき時間をかけ自立支援に繋がるようにしている。職員は理念の持つ意味を理解し日々の業務に取り組んでおり、気がついた事柄については管理者がその都度、注意、指導し利用者の想いに寄り添うようにしている。家族に対して入居時に理念に沿った支援内容について説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で出来ていないので地域の行事等出来るようになれば参加していきたい。	開設以来自治会に加入し地域の一員として積極的な活動を行っている。また、区長との連携もきめ細かく取り様々な情報を頂いている。そのような中、神社のお祭りに招待をいただき顔を出している。更に、敬老会の際には村長が来訪し祝辞を頂いている。また、例年行われている保育園、小学校、中学校との交流会やボランティアの来訪等は新型コロナの影響を受け今年度は中止されているが、収束後には再開する予定を立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献。コロナ禍に関わらず発信できるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の取り組みを伝える様にしていきたい。	家族会会長、区長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催していたが、現在は新型コロナの影響を受け密を避けるため開かれていない。ウィズコロナを踏まえ地域に密着し開かれた施設として参加者の枠を広げることも視野に入れ、運営推進会議の開催に向け準備中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所時だけでなく、入所後の利用者の体調変化等の連絡を行っている。	村の住民福祉課とは連携を深めており、必要な時にはその都度訪問し相談をしている。また、地域包括支援センターとは在宅介護の状況について連絡を取り合い、情報を共有している。介護認定更新調査は調査員が来訪し行われ、立ち会われる家族もいるがそうでない家族には了解を頂きホーム職員が利用者の心身の状況を説明している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません（家族より施錠などについて希望がある場合は個別に検討します）	身体拘束をしない支援に取り組んでいる。外出傾向の強い利用者がいるがホームの周りを散歩したり、家族に連絡を取り好きな物を買ってきていただき気持ちを落ち着かせるようにしている。また、転倒危惧のある方がおり、リスク回避のため人感センサーを使用している。月1回、グループホーム会議の中で身体拘束適正化委員会を開き、拘束に対する意識を高め拘束ゼロに向けて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃職員同士で意見交換を行い、お互いに注意をし、虐待防止の意識を徹底させています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用し、活用して利用者が安心して生活が継続できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に契約書を確認、家族、本人の不安や要望を聞きながら対応を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を行った時に意見要望を伺っていましたがコロナ禍で開催が難しくなり、電話や文書にて意見要望を伺い、報告しています。	新型コロナ禍が続き家族の面会も制約を受けながらの状況が続いているが事前に連絡をいただき玄関先での短時間の窓越し面会を基本として行っている。定期的に週1回位面会に見える家族もいる。遠方の家族については電話で利用者の近況を伝えている。また、利用者が重度化に陥った時には居室にて面会していただくようにしている。利用者一人ひとりのホームでの様子はきめ細かく電話で話したり、一人ひとりの写真を撮り溜め家族に届け喜ばれている。例年であれば敬老会やクリスマス会等に合わせ年2回家族会を行っているが、現在、新型コロナ禍のため中止しており感染状況を見ながら再開する予定を立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を行い、必要に応じて随時職員の話を聞いています。	月1回第3水曜日にグループホーム会議を行っている。法人からの業務連絡、個別議題についての話し合い、職員一人ひとりの5～10分ぐらい意見発表等を行い、業務の向上に繋げている。人事考課を兼ね、年1回、施設長との個人面談が行われ、意見交換等を行い意思疎通やモチベーションアップに繋げている。また、年1回職員対象のストレスチェックが行われメンタルケアにも気配りがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が一人一人が働きやすい環境を考えてくれて現場の状況にあわせて対応してくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は難しいがリモート研修や勉強会に参加できるよう勤めています。また研修結果も会議で報告し、職員間で共有できるようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為交流が難しくなっている。他施設との交流は難しいが併設されているデイサービス、特養とはヒヤリハット・事故報告など情報交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の生活の関わりの中で困っていることや要望がないか聞き取れるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話連絡時に近況をお伝えしつつ、要望も取り入れられるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人と家族の意向を伺い具体的なケアに活かせるよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で洗濯物たたみ、干し、テーブル拭きなどを行ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為関わりが難しいもののお花見や等の外出時に一緒に参加していただいたり面会時は居室で一緒に過ごしていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で人と場所の関係継続が難しい状況になった。	入居時に聞いた友人、知人の来訪があるが、現在は新型コロナ禍のため中止している。おやつやアイスクリーム、季節の物等、利用者が希望されるものについては家族の了解を頂き職員が買い求め渡している。理美容については法人契約の美容師が定期的に来訪し「カット」して頂いており、馴染みの関係になっている。年末に向け来年の干支の年賀状を個人別に作成し、家族に発送を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯物たたみや干しを行っていただいたり、お茶の時などは利用者同士でお話をされています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方等、他施設、家族との間に入り、フォローできるよう支援センターと連携しています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の関わりの中で困っていることや要望がないか聞き取れるように心がけています。	元気な利用者が多く、全員意思疎通の出来る状況である。テレビや新聞を見ながら新型コロナの状況等も話題にのぼり話に花が咲く時も度々あるという。そのような中、利用者一人ひとりの状況を把握し、思いを受け止め、希望に沿えるようにしている。また、気づいた事柄については一人ひとりのケース記録と業務日誌に纏め、出勤時に把握し日々の業務に入るように徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いたり、ご本人の話から生活歴や馴染みの暮らしを把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや業務日誌、ケース記録に記入し、一人ひとりの現状の把握、職員間で共有することができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりでご本人の希望、家族の要望を取り入れながら定期的にモニタリングを行い見直しています。	職員は1名の利用者を担当し、敬老会や誕生日会の準備、買い物の相談等を担っている。計画作成担当者と担当職員がモニタリングを行い、月1回のグループホーム会議の席上で変更前の事前カンファレンスを行い意見を出し合い、家族からの希望も加味し計画作成担当者がプラン作成を行っている。入居時は事前面談の際に聞いた情報を参考に暫定プランを作成し3ヶ月間様子を見て、その後、6ヶ月のケアプラン作成に繋げ、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りや業務日誌、ケース記録に記入し、一人ひとりの現状の把握、職員間で共有することができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に合った生活をしていける様に他のサービスをもっと利用していくことも検討していきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で協働が困難になっている今、利用されている方には地域資源との協働で安全で豊かな暮らしを楽しむ可能性があると感じています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望する医者に掛かっていますが事業所のかかりつけ医にかかっている方がおおいです。週2回月木の回診で診ていただけるよう支援しています。	入居時に医療体制についての説明を行っている。現在、大半の利用者は法人協力医の週2回の往診で対応し、若干名の利用者が入居前からのかかりつけ医の月1回の往診で対応している。ホームの常駐看護師と併設特養の24時間対応の看護師による健康管理、医師との連携により万全な医療体制を整えている。歯科については必要に応じ協力歯科で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいるので緊急時対応できるようにしています。また併設施設の看護師にも協力してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会や電話などの情報交換、相談体制をとれるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の指針についての説明を行い、ご本人、ご家族が希望する時は看取りケアを行っています。	終末期対応に対する指針があり、利用契約時に説明している。入浴や食事が難しくなった時には家族、医師、ホームで話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き意向に沿った支援に取り組んでいる。本人、家族がホームでの最期を希望される場合は看取り支援を行っており、今まで3名の方の看取りを行ったという。合わせてホームとして出来る支援に取り組み、併設特養や医療機関への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命処置訓練の他に各自で自主訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の他に、各自で常時火災時の通報、避難訓練、消火器の位置の把握を行っています。	9月と3月の年2回防災訓練を行っている。夜間での火災想定の避難訓練では利用者を外へ移動しての訓練を行い、土砂災害避難訓練では通報訓練に合わせ避難場所の確認を行っている。また、4月には消防署員にホーム内を見ていただき防災機器の点検確認も行っている。更に、緊急連絡網の確認訓練ではスマートフォンの一斉配信訓練を定期的に行い防災への備えとしている。備蓄は法人として「食料」が5日分、「介護用品」「衛生用品」などが1ヶ月分準備されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員本意の対応にならないようこころがけています。	男性職員がおり希望に合わせ同性介助に気配りしている。丁寧な言葉遣いに心掛け、本人が不快にならないよう心掛け、親しき中にも礼儀を重んじるよう徹底している。呼び掛けは苗字か名前に「さん」付けでお呼びし、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けをするよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりで思いや希望を聞き取るようにこころがけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の一人ひとりのペースを大切にし、穏やかに過ごせるようにこころがけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好むものが着られるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、準備や片づけを一緒には行っていません。昼・夕は併設施設の厨房で調理されたものを頂いています。季節の行事や可能な時は希望のメニューを取り入れ、一緒に作っています。（うどん、おはぎ等）	全利用者が自力で食事が出来る状況である。昼食と夕食は季節感を加味し家庭的な料理を中心に併設特養の厨房で調理した副食を用い、ご飯と汁物はホームで調理している。朝食は夜勤職員が調理し提供している。利用者のお手伝いは力量に合わせ、お茶を入れたりテーブル拭き等に参加していただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と定期的に栄養マネジメントを行い、一人ひとりにあった食事を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に応じた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援しています。	見守りながら一部介助の方が大半で、全介助の方が若干名という状況である。職員は一人ひとりのパターンを把握しており、排泄表に合わせ起床時や食事前後の定時の声掛けを行い、排泄の自立支援に繋げている。排便については一人ひとりの様子を見て看護師がコントロールを行い、「お茶」「乳製品」を中心に1日700cc～1,500ccの水分摂取に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、排泄チェック表をもとに水分補給や便秘薬で予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールを組んでいまうすが体調や気分で入る日を変えています。	全利用者が何らかの介助を必要としている。基本的に週2回入浴を行っているが希望で週3回入浴される方がいる。入浴拒否の方がいるが、誘い方に工夫をして入浴していただいている。入浴後には「お茶」「牛乳」「スポーツドリンク」等も楽しんでいる。また、併設のデイサービスのお風呂が「温泉」を利用していることから空いてる時間帯での利用を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の今までの習慣に合わせ、居室やソファーで休めるような環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師、ケアマネが管理し内容、症状等詳細を紙面にしてすぐに目に入るように業務日誌に挟んでいます。必要に応じて嘱託医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物たたみや干し、掃除などを一緒に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出活動は行っていません。	外出時、自力歩行の方が半数強で、杖使用の方が若干名、車いす使用の方数名という状況である。新型コロナ禍の中、外出が難しい状況が続いているが、ホームを回遊する広いベランダを有効活用し、天気の良い日にはベランダを回遊したり、桜や紅葉の季節にはベランダに出て昼食を楽しんだり、夏には村の花火大会の見物などをしている。また、今年の秋には500個の「干し柿」作りにも挑戦し、賑やかな時間を共に楽しんだという。ウィズコロナを踏まえ感染状況を見ながら以前の様な外出レクリエーションも少しずつ再開する予定を立てている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で預かり金として管理し、入居者個人では所持していません。希望があれば買い物の代行をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親せきの方からの贈り物のお礼の電話をしたり、年賀状を書いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた空間作りを行っています。	広々とした共用部分はエアコンと床暖房で快適な生活空間が作られている。季節の飾り付けもしており、現在は「クリスマス」の装飾が施され、季節感を感じられるように演出している。壁には利用者の作品も飾られ、活動の様子を窺うことができる。回遊式のベランダには外気浴用のベンチが数ヶ所に置かれ天気の良い日の寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机や席の位置を工夫しています。ソファーや長椅子を配置し、個々でも集合しても居心地の良い場所で休めるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていたコタツや布団などご本人に馴染みのあるものを配置し、居心地の良い環境を作れる様に務めています。	広々とした居室には洗面台が設置されている。エアコンと床暖房が完備され快適な生活空間が作られている。持ち込みは自由で、自宅で慣れ親しんだタンスやイス、テーブル、テレビ等が持ち込まれ、中には畳の上にコタツを置き寛いでいる方もいる。壁には家族の写真や自分の作品が飾られており、思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所がわかるように紙を貼ったり、車いすの方が動きやすいよう広くスペースをとっています。また、歩行される方が安心して歩けるよう手すり等の環境整備にも工夫しています。		